

りんご畑と地球温暖化

東京都日野市立豊田小学校 六年 亀井 砂久

新聞やテレビのニュースでよく耳にする地球温暖化。そんな地球温暖化の被害は果物や野菜、穀物を育てる農業にも及んでいるということ、みなさんはご存知だろうか。

私はもともと長野県に住んでいて、親せきのおじさんはりんご畑を営んでいた。そんなおじさんのりんご畑に家族で訪れたことがある。そこで、もぎたてのりんごを頂いたのだが、とてもみずみずしく、甘くて少しすっぱい、ともかくおいしいものだった。あきばえ、という種類のりんごで、甘味が濃厚で果汁が多いところが特徴らしい。しかし、おじさんはそんなすばらしいりんご畑が今、危機にあるという話をしていた。地球温暖化の影響である。高温によって果物の色づきが悪くなったり日焼けしたりして、価格が低下しているらしい。それだけでなく、そのような実は売り物にならないので捨てられてしまうこともあるという。これからどんどん地球温暖化が進んでいって、頑張っ तरीんごを育ててくれている農家さんが困ったり、とてもすばらしいりんごが捨てられてしまったりする様子を想像して私は心が痛んだ。

しかし、そんな地球温暖化に立ち向かうため、農家の人達は色々な取り組みを行っている。例えば、日焼けの対策として畑に細霧冷房装置を導入したり、品種改良を行ったりしている。そのなかで、私達ができることは何なのか、考えていくことが大切だと思う。

このように、地球温暖化は果樹園に大きな被害を与えているが、そのなかで果物農家の人達は色々な適応策で対応している。私は、地球温暖化対策で、なるべく地元の果物や野菜を食べるようにしたい。それによって、地元農家さんも困らないし、車による輸送距離も短くなるので、二酸化炭素が出ないからだ。一人一人の心がけが地元の果物や農家を救っていくのだと私は思っている。